

放課後等デイサービス事業所向け

未就学児の就学に伴う放課後等デイサービス利用に関する実態調査

R5.10

1. 調査期間

令和5年8月10日～令和5年9月8日（計30日間）

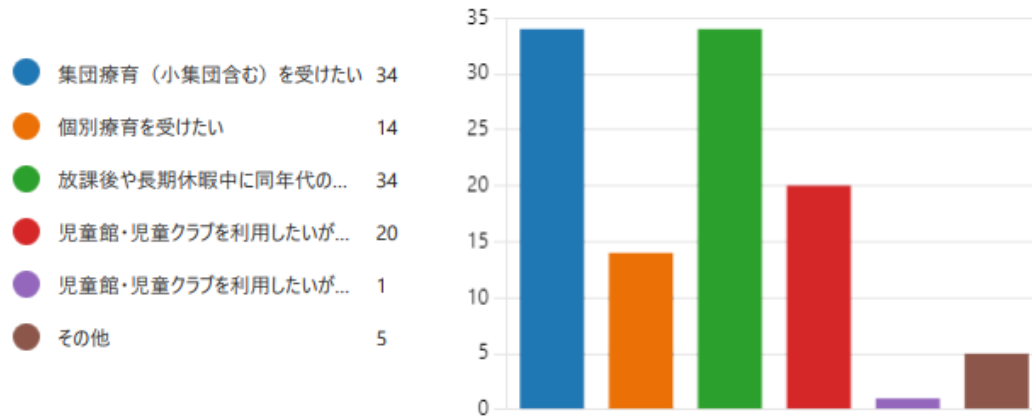
2. 対象事業所・回答率

・対象事業所:福井市内に所在する放課後等デイサービス事業所52か所

・回答事業所数:39か所（回答率75%） ※2事業所で重複回答あり

3. アンケート結果（問4～20）

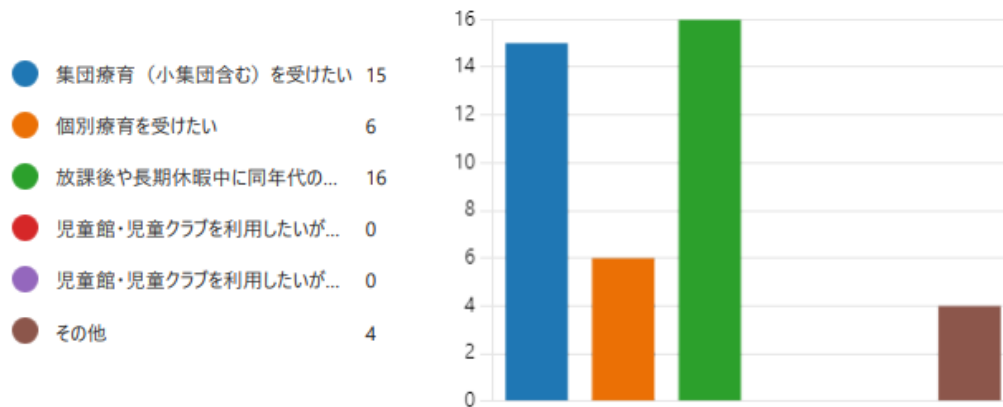
4. 貴事業所において 就学に伴う放課後等デイサービスの利用を希望する理由として、多いものを上位 3 つまで教えてください。



（その他）

- ・重心の居場所
- ・自立に向けた支援、保護者の相談
- ・保護者の勤務等の都合で
- ・土・日の過ごし場所が欲しい
- ・対象が小学 3 年生以上

5. 問 4 で選択した理由のうち、最も多いものを 1 つ教えてください。

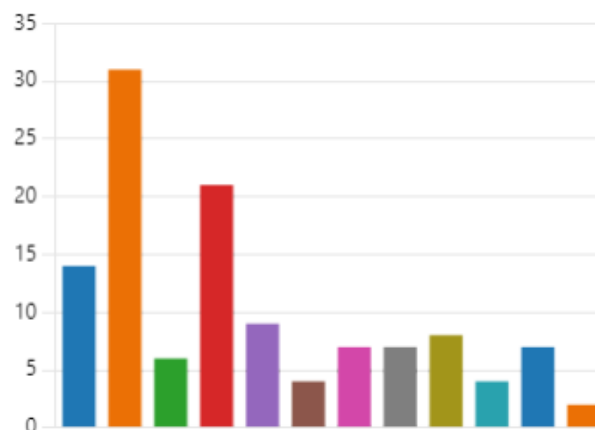


（その他）

- ・重心の居場所
- ・自立に向けた支援、保護者の相談
- ・保護者の勤務等の都合で
- ・対象が小学 3 年生以上

6. 利用を希望する活動や支援として、多いものを上位3つまで教えてください。

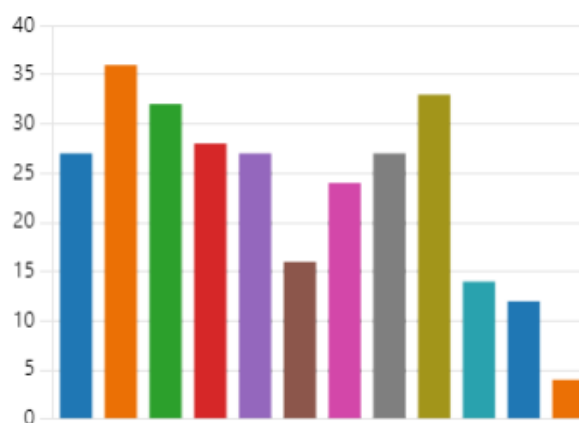
● 基本的日常生活動作の訓練	14
● コミュニケーションに課題のある児童へ...	31
● 創作活動（表現する喜びを体験）	6
● 自立に向けた支援	21
● 学習支援（学習教材や宿題に取...	9
● 地域との交流（子どもの社会経験...	4
● 外遊びや自然に触れる機会の提供	7
● 余暇の提供（子どもが望む遊びな...	7
● 保護者の相談先	8
● 預かりの場（レスパイトのため）	4
● 預かりの場（保護者の就労のため）	7
● その他	2



（その他）・身体面を見てほしい ・読み書き障害の支援

7. 問6のうち、貴事業所で行っている活動や支援を教えてください。※複数選択可

● 基本的日常生活動作の訓練	27
● コミュニケーションに課題のある児童へ...	36
● 創作活動（表現する喜びを体験）	32
● 自立に向けた支援	28
● 学習支援（学習教材や宿題に取...	27
● 地域との交流（子どもの社会経験...	16
● 外遊びや自然に触れる機会の提供	24
● 余暇の提供（子どもが望む遊びな...	27
● 保護者の相談先	33
● 預かりの場（レスパイトのため）	14
● 預かりの場（保護者の就労のため）	12
● その他	4



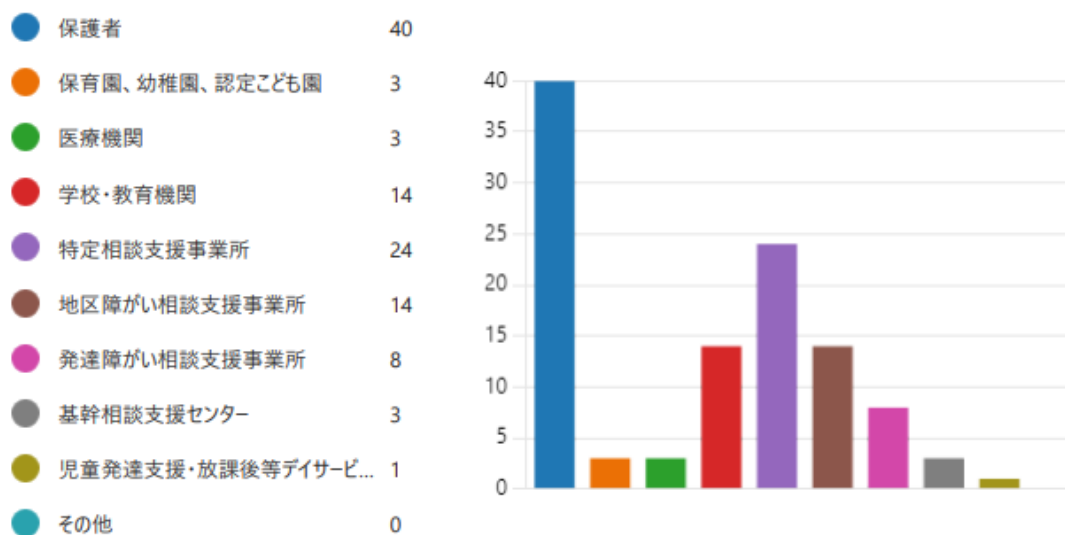
（その他）・身体面を見てほしい

・その他、ニーズに応じたさまざまな活動

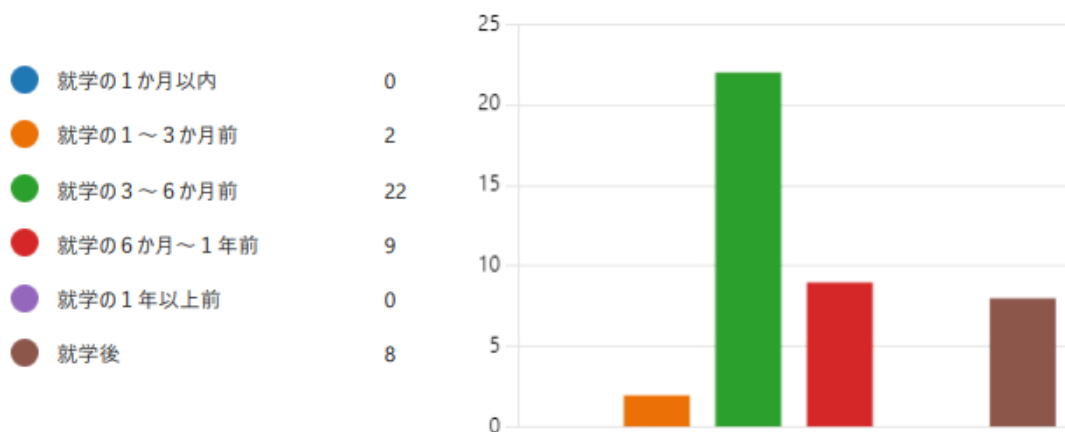
・読み書き障害の支援

・読み書き障害を持っているお子さんへの支援

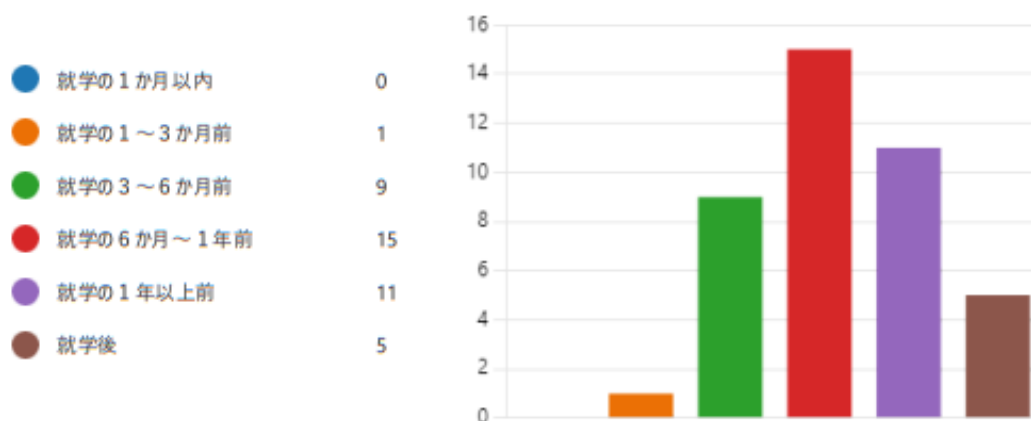
8. 放課後等デイサービスの利用について、相談を受けることが多いものを上位 3 つまで教えてください。



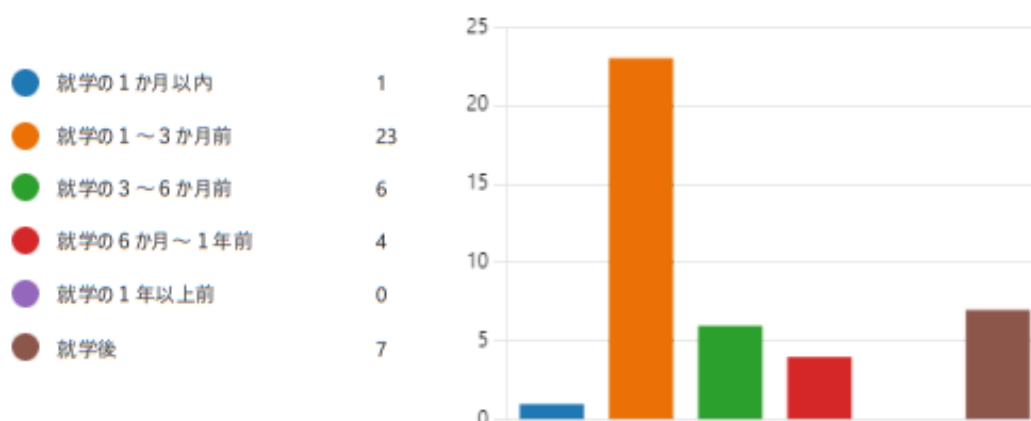
9. 貴事業所の利用についての申請を受ける時期として、最も多い時期を教えてください。



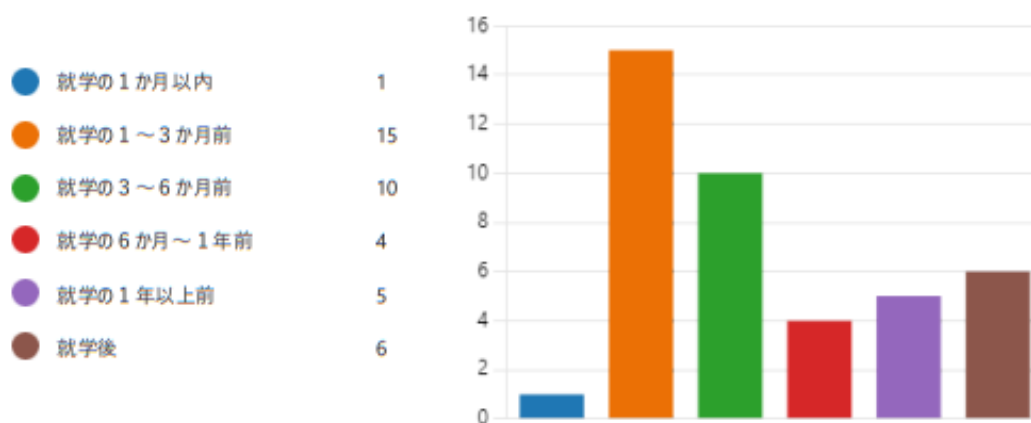
10. 貴事業所の利用についての申請を受ける時期として、最も早い時期を教えてください。



11. 貴事業所の利用を確定する時期として、最も多い時期を教えてください。



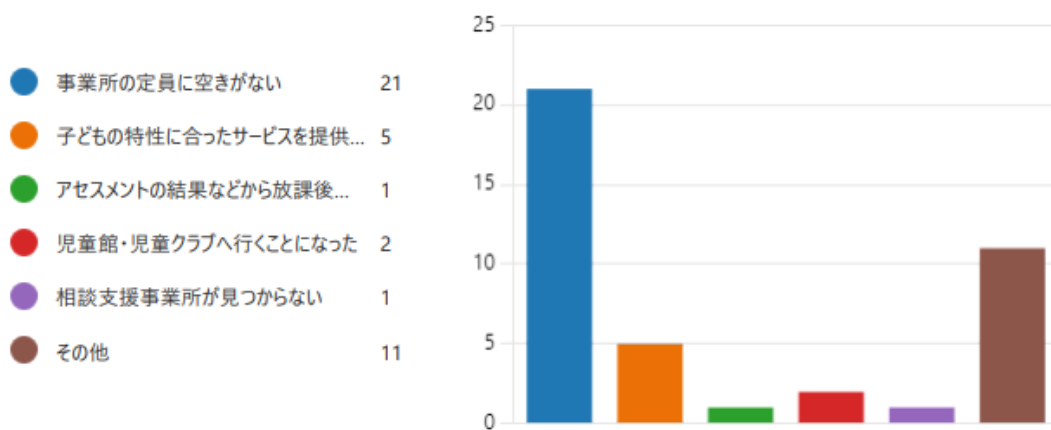
12. 貴事業所の利用を確定する時期として、最も早い時期を教えてください。



13. 貴事業所の利用についてお断りした、又は利用に至らなかったことはありますか。



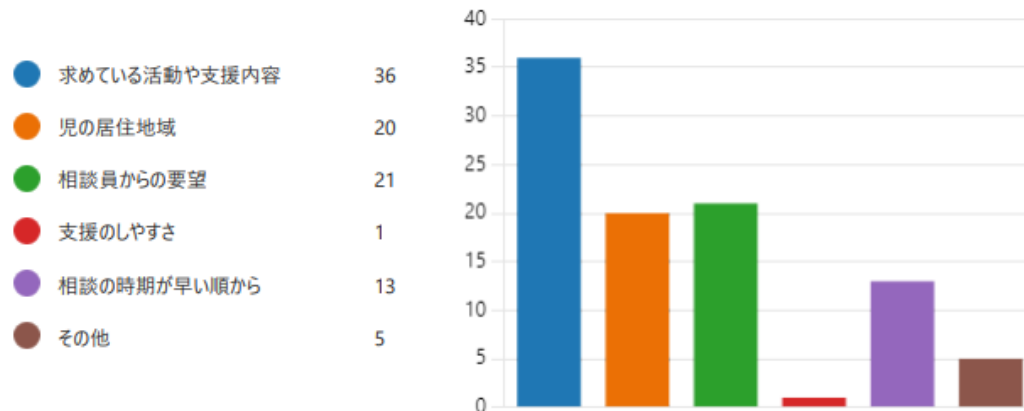
14. 「ある」と答えた方に聞きます。その理由で最も多くあてはまるものを教えてください。



(その他)

- ・問 13 で「ない」と答えた(設問の不備)
- ・距離が遠く、別事業所利用となった
- ・送迎範囲外。年齢の近い子がいなかった。
- ・通っている学校への送迎が難しい
- ・ニーズとサービス内容とがマッチしない
- ・利用を辞退された
- ・校区が送迎範囲ではなかったため

15. 利用希望があった場合、何をもとに利用を決めているか教えてください。※複数選択可



(その他)

- ・利用曜日、時間帯
- ・読み書き障害の支援
- ・見学等からのアセスメントをもとに支援できることを保護者、本人がしっかり理解し、ともに歩

めること。

- ・要対協や虐待など緊急度の高いケースに関しては優先的に受け入れるようにしている。

16. 高校卒業以前に、放課後等デイサービス利用終了を目指したができなかったケースはありますか。



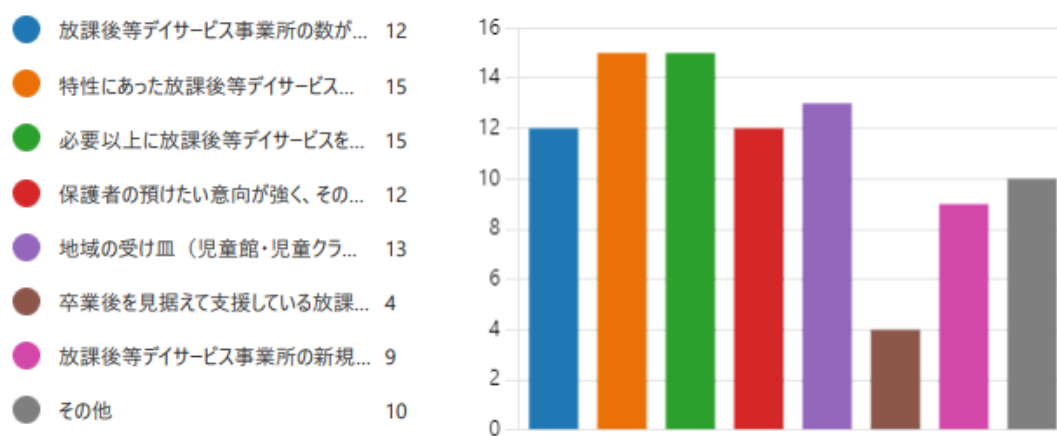
17. 「ある」と答えた方に聞きます。終了できなかった理由を教えてください。※複数選択可



(その他) 次ページ

- ・問 16 で「ない」と答えた（設問の不備）
- ・高校卒業を目指した方の利用がまだ無い
- ・高校卒業以前に放課後等デイサービスを終了するという話し合いに至らなかった。
- ・卒業前に利用の終了を考えている保護者はいない

18. 本市において、未就学児が就学に伴った放課後等デイサービスの新規利用を希望する際、必要な療育に繋がりにくいことがあるといったお声を聞いています。そのようなことが起こると考えられる要因として、貴事業所の考えに近いものを3つまで教えてください。



（その他）

- ・支援者の質
- ・分かりません
- ・サービスを知らない、相談員へつながらない。
- ・放課後等デイサービスの事業所の質に差がある
- ・繋がりにくいとは思わない
- ・送迎希望があるが、送迎範囲外の地域だった
- ・個々のケースによってさまざまでは？
- ・ニーズの把握など調整機能が十分働いていないのでしょうか
- ・保護者の就労の都合にこたえられる事業所が少ない。

19. あなたの考える療育は何ですか。

- ・児童に寄り添い、その子主体で、その子の成長を手助けすること。
- ・地域資源を利用して生活できるまでの支援
- ・障がい特性および学校でも小集団で指導を受けているため、対子どもコミュニケーションスキルの獲得が遅れている子が多い。また、叱られたり、周り比べて「出来ない」と感じて育つ子が多く、自己肯定感が低い子が多い。学校とは違う小集団で、他者とのコミュニケーションを円滑かつ自信を

持って行動できるようにしていくことが必要だと考えています。

・退所する際に結果が分かると思いますが、その時々で求められる内容は異なっています。個人的には自分で物事を解決出来るようになる力を身に付ける事を念頭にしています。

・本人や家族への支援を通して、家庭生活や地域生活を支える（QOL を高める）。

・保護者や教育機関、放課後児童クラブなど一般的な子育て支援施策のための後方支援。

・社会性を高める日常生活のレベルアップにつながる療育。（活動の中でのコミュニケーションや困りごとがあった際の解決の仕方、助けの求め方。又、やりたい事への意思表示。）

・私が考える療育とは運動や制作活動、戸外（公園や施設見学）活動など様々な活動の中で集団行動や集団生活に置いて必要なコミュニケーション力やマナー・モラルなどといった一般常識などを集団活動を通して教えたり経験から学んでもらいたいと考えています。また、運動療育や音楽療育などを通じて児童のチャレンジ精神の向上や身体機能の向上なども目指したいと思っています。

・集団生活・行動または様々な体験や活動を通じて本人のペースで社会に触れていき、その中でたくさんの失敗や学びを経験していくこと。そして我々は支援者はその成長をサポート出来るように専門知識やツール、関係機関などと連携しその児童に合った支援を提供していくと考えています。

・児童の特性を悪いものではなく、いいもの・得意なことに出来るよう支援を行っていき、放課後等デイサービスから就労になっても児童が特性・障害を活かせるように導くこと。

・卒業後を見据え、遊び、楽しみを通し、必要なスキルを見出し、ひとりひとりに合った支援を行う。

・障害があってもなくてもそれぞれの個の力を伸ばすこと。

・頑張りたい事や苦手な事に対しての積み重ねを一緒に取り組む。

・つながりを大切にして生きていく力を身に付ける

・ご利用者様の自立・卒業を目指し、一般社会で安心して生活できるように支援していくこと。

・本人（保護者、周りの人たち）が笑顔で楽しく生活できるよう一緒に考えていくこと。

・将来社会にでる時のために、苦手な部分のスキルを身に付けていったり、本人に合ったやり方を見つけていったりしていく。

・主体的に関わる力、選択する力、助けを求める力を育成する。（自律させる）

・本人の特性を活かして自立した生活をするための支援方法

・主に重心対応なので他の事業所と違うような気がします。本児の機能や能力の維持向上と考えています。

・日常生活でのつまづきを見つけて過ごしやすくなる手伝いをする。利用者や保護者と一緒に考えること。

・子ども達の能力が最大限に発揮できるように、放課後の時間を楽しく過ごしながら生活指導や療育支援を行うこと。また、自立に向けた支援を行いながら、子ども達が感動や意欲をはぐくみ健康で幸せな生活が出来る様に支援することだと考えています。

・放課後の時間、リラックスしながら楽しく健康であるよう家庭では出来ない経験を通して生きる力を育てたり、基本的生活習慣が身につくように支援しながら子ども達が意欲的に関わられるよう成功体験を積み重ね、自己肯定感を育めるよう一人ひとりに合わせた支援をすることだと思います。

- ・児童の成長につながるものすべて
- ・子どもの特性の中でも、その子の生きづらさを長期的な目で改善できるように支援していくこと。また、逆に特性の中でも社会に出てその子の就労などでのスキルとして生かせるものに関しては、そこを伸ばしてあげること。
- ・個々のニーズや課題に合わせた支援を考えて提供すること。必要なスキルを身につけることを目標とした支援を行うこと。将来、生きやすく過ごしやすく生き生きと過ごすための手立てを考え、提案、提供すること。
- ・特性理解に基づいたさまざまなサポート
- ・将来の自立、社会参加、地域移行への支援、現状の困りごとや不安の解消。
- ・将来社会に出ていくための、自立支援。必要な時に必要な人に、助けを求めることのできる力を身に着けること。
- ・お子さんの将来を見据えて、適切な形で社会参加ができるように導くこと
- ・児童ひとりひとりへの合理的配慮のもと社会性スキルや生活スキルの向上、将来への見通し、不安の軽減、自己肯定感の向上。療育サービスだけでなく、家庭や学校、地域も含めた総合的支援。
- ・アセスメントを元にガイドラインに沿った支援を提供し、児童ができることを増やしたり、保護者の困りごとを減らしていけるようになること。
- ・本人を変えるのではなく、本人を取り巻く環境（人、場所）が本人の特性を理解した上で、本人が生活しやすい環境を整えるための、特性理解と支援方法を探求すること。そして、本人が自己理解を進める場。
- ・事業所としては、軽度発達障害のお子さんが中心なので社会性やコミュニケーション力の習得、将来への自立に向けてのイメージづくりを考えること。
- ・障害や気がかりなことがあっても元気に生き生きと暮らしていけるよう、本人にはその力が発揮できるようにするとともに、保護者を含めた環境を支援すること
- ・放課後等デイサービスは子どもの成長過程の中での通過点のため、本人、保護者の思いや学校や地域の実情に応じてしっかりと次のステップを見据えていく必要がある。地域でお友達を作ることが目標、卒業後に就労事業所で働くことが目標などそれぞれに事業所の卒業に向けたイメージを共有して取り組むことで、必要な療育が具体化していくと思う。そのため、まずは事業所に楽しく通ってもらえることを第一にし、その中で個々に合った療育を提供していくため、事業所の療育方針はあるものの担当職員それぞれが主体的に本人に合った療育を考えていけるように工夫し、子どもたちと職員が共に楽しく成長していけることが療育なのではないかと考えています。
- ・卒業後や将来を見据えて必要な能力を引き出し少しでも成長できるような支援を行う事
- ・医療面の治療と並行して、社会で生きていくための力を身に着けるための力を身に着けるもの。
- ・①お子様の特性を保護者に理解し、受容してもらうこと ②お子様の特性を学校関係者に理解し、受容してもらうこと ③お子様の特性を本人に理解し、受容してもらうこと
- ・本人の特性を理解し、コミュニケーション力の向上など、将来を見据えて生きていく基本的な力を身につけさせていく。

- ・個々の発達の状態や障害の特性に合わせた、支援や働きかけをすること
- ・個々の発達の状態や特性に応じて、困りごとの解決や社会に参加できる力をつけることを目指し、支援すること。

20. 必要な療育につながりにくい現状(課題)を改善するためにはどうすると良いと考えますか。

- ・アセスメントをしっかりと行い、本当に支援が必要な児童を見つけていく必要があると思う
- ・役所の窓口ではなく直接事業所に相談したり、学校や主治医より紹介を受けて来られるケースが増えている。行政の体制が市民に開かれたわかりやすい体制出ることが望ましい。また、相談員が各事業所のカラーを把握し、必要な支援に応じて事業所に繋いでいくことが望ましい。
- ・行政による方針と助成が必要ではないでしょうか。民間事業者が運営する限り、市街地であったり、マジョリティが望むサービス事業所が増えたりすることは否めないと思うので、例えば放デイ空白地域だったり、需要は大きくないけれど必要とされるサービス(強度行動障害に特化した放デイなど)をしようとする事業所に対して助成金を出すなどする必要はあると思います。
- ・質問内容を具体的にお願いします。よく分かりません。
- ・放課後等デイサービス事業所の数を増やす。
- ・まだサービス自体が一般的に知られていない様に感じる。受け皿や職員の資格要件(特に児発管)が厳しい部分もある様に感じます。
- ・今一度保護者の方や相談員、関係機関との情報共有を行い、今の児童にあった療育は何かを話し合い、児童1人1人にあった療育の再確認とそれを提供できるように環境を整えること。また、必要に応じて他事業所への紹介を検討することと考えております。
- ・様々な特性に合った放課後等デイサービスの充実やそれを受けやすい環境作りが必要だと感じます。
- ・地域・相談支援事業所との連携を密に取りながら、児童の特性・ニーズ・障害に合った事業所選びを行っていく必要性がある。
- ・発達支援センターの質の向上 相談支援員一人が抱える人数の制限 相談支援員を各事業所に配置、現場と相談の兼務 相談支援員が増えることで、様々な所で支援の質の向上や卒業を見据えた支援、卒業後の統一した支援や連携が取れる。
- ・お親の言いなりにならないこと。
- ・放課後等デイサービスの事業所に質の差があるのでは?放課後等デイサービスは増えているが現状の課題がある。行きたいところが定員がいっぱいなのであって、空いている事業所もあるのでないだろうか。改善の回答になっておらず申し訳ございません。
- ・放課後等デイサービスの本来の目的に立ち返る。
- ・各関係機関及び保護者様やご家族との連携の機会をもっと増やすこと。ご家庭内での様子、学校での様子(授業風景等)、他事業所での様子(活動中の様子)を見聞き出来る機会を増やせるといいかもしれない。

・入り口の問題→アセスメントの段階で、お互いが何が出来て何を求めているのかを確認しあうことが大切。その中で相談支援員が中立の立場から支援が必要かどうかを見極めることが必要なのではないか。出口の問題→福祉サービス終了後のサポート体制の充実。地域の受け入れの場の充実。

・地域で過ごす時間を増やしていけるような体制を整えていけるとよいと思います。

・児童発達支援を受けていらない方が放デイに関する情報を持っていらない方が多いと感じるので、保育園や幼稚園と市町が連携し、必要な情報を保護者に伝わりやすくするシステムを作る。

・私たちの様に新しい事業所の内容など、個々の事業所の特性を利用したいと考える利用者様に直接説明できる場があるとよいのではと考えます。また利用する際相談員を探す事が難しい状況の方がいる様子があるため、スムーズな利用に繋がるよう相談員の確保も重要と考えます。

・昨年度は対応できる事業所が少なかったが現在、事業所増に転じている。過去の課題かと思います。

・早い時期に相談員さんと見学にまわったり、見学や体験の機会をつくる

・新規契約者の場合、1人が2つ以上の事業所を利用することが多いので、その調整が難しいと思う。お互いの事業所が、保護者と話し合い利用日を決定できるとよいが、事業所の空きの都合で調整が難しいのが課題である。先に保護者と話した事業所が都合の良い日を決定してしまう事があるので、事業所が同席して一緒に話し合う機会があるといいのではないかなと思う

・1人の利用者に対し複数の事業所が関わっているため、事業所同士の連携をはかったり、学校との連携を密にしながら課題を把握し改善できるように話す機会(担当者会議など)を作っていくとよいと思います

・事業所側にもそれぞれ特徴があるため、利用者と事業所の特性をよく理解してマッチングできる相談支援員を育てる

・放デイの特色によって、選択肢をわかりやすくする。児童館のように校区である程度すみわけを行い、その中で保護者が選択できるようにする。(設置主体である市が働きかけてほしい) また、事業所の特色が保護者にも相談支援専門員にもわかるような一覧表を作成する。放デイの利用年齢もある程度わかると、選びやすい。(小学校で終了となる事業所やそうでない事業所もあるため、途中で事業所を変更する保護者もいるため

・当事業所は行動障害のあるお子さんが多く、支援するための職員の確保(人数、スキル)が難しい状況である。外出などの楽しみを多く提供したい 思いもあるが、現状では難しい。市が保護者への聞き取りで判定される個別サポート加算や強度行動障害の判定についてだが、保護者のみの聞き取りでは家庭内での一面しか見えないので、複数の情報で判定してほしい

・まずは本人およびご家族のニーズが十分に整理共有されること

・障害特性や程度、年齢に応じた給付決定をする(保護者の就労状況によっても変わるとは思います)

・未就学児の早期から、放課後等デイサービスの実際の様子や支援を広く知って頂き、ご本人に合

った療育を見つけていく

- ・人員を増やすことで、ゆとりをもって療育を計画できるようにして児童一人ひとりにあった支援ができるようにする

- ・保護者支援や療育サービス以外での支援療育の向上が必要と考える。関係機関との連携、地域での支援療育があれば療育サービスの利用終了を早めることもでき、より支援を必要とする利用者が適したサービスを受けることができる環境を整えることが必要と考えます

- ・定期的な情報共有の場を設け児童発達支援⇄相談支援事業所⇄放課後等デイサービスの連携を密にしていく

- ・入りづらいから、やめにくい。一旦途切れると次回の利用に繋がりにくいことから、保護者が不安になり継続を希望される。福祉が途切れても、相談先（地区相談）があることを周知したり、本人の生活年齢にもよるが、利用継続検討学年の基準を設けるなど循環するような仕組み作りが必要。事業所はその基準学年に向けての目標設定や支援内容を検討する必要がある

- ・子どもさんの支援計画を作成できる相談員の不足と相談員としての公平性中立性を確保しながら、子供さんを取り巻く環境の課題なのに対応できる相談員がいるのかということが課題だと感じるの、そこをどうしていくのかだと思います

- ・放課後等デイサービス事業所の数は不足しているという実感はないのですが、事業所と保護者等のニーズのミスマッチが起きているのでしょうか。相談事業所等の調整機能を高める必要があるのかなと思います

- ・放課後等デイサービス事業所の量的問題に関しては、それぞれの学校の全生徒数や支援を必要とする児童の数をある程度把握し、その地域の中で事業所数が見合っているのかの検討が必要と思われる。（地域の小学校に迎えに行った際に、空きがなかったからと遠方の放デイさんが迎えに来ているケースを見かける）。また、発達障害、知的障害、肢体不自由児などのどの対象児がつながりにくいのか、事業所ごとでどんな支援に強みがあるのかを把握していき、病院や保育所、相談支援専門員さんが紹介する際のヒントになるようにするのもいいかもしれない。就職説明会のように、放デイの事業所が集まって各ブースを設け、保護者が話を聞きに行くような仕組みを作ることで、保護者間のつながりも作れ、一気に事業所説明を受けられる平等性も確保されるのではないかな

- ・複数利用している事業所同士で支援の細かい部分まで情報の交換をして統一した支援に取り組むようにしていく

- ・わかりません

- ・①児童発達支援を増やす。でも専門的な知識が必要 ②特別プログラム特化型を増やす。でも専門的な知識が必要 事務書類が多くて、専門的な知識が必要と思っても時間がとれないでしょうね

- ・対象児への療育が本当に必要かどうかを公平な目で見極める、公の機関の設置及び充実。（医療機関の診断と保護者の意向だけでなく、実際に園に出向いている保育カウンセラーや教育相談、センターの職員に判定に加わってもらう。）

- ・サービスを受けやすいよう、早期から行政や福祉機関からパンフレットなどを作成し、案内していく

- ・主に預かりが目的で利用している児を、放デイから地域へ送り出す働きかけが必要